



生成AIどう生かす

教諭ら参加し研修会

【花巻】

2026年度県
教育研究所連盟研
修会兼県立総合教
育センター公開講演（同
連盟主催）は14日、花巻
市北湯口の同センターで
開かれた。参加した教諭
らが講演を通じ、生成AI
（人工知能）を教育現
場どのように活用して
いくべきかを考えた。

県内の公立小中高校の
教諭らオンラインを含め
約160人が参加。文部
科学省初等中等教育局参
事官（デジタル学習基盤
担当）付参事官補佐の菅
野祐太さんが「生成AI
で拓く教育の未来」と題
し講演した。

菅野さんは東日本大震
災後、大槌町で被災した
子どもの学びを支える

「コラボ・スクール大槌
臨学舎」の立ち上げに携
わった。2019年から
は県立大槌高校のカリキ
ュラム開発等専門家とし
て学校に常駐し、地域と
学校をつな
ぐ教育活動
も展開し
た。

同日は教
育現場にお
ける生成AI
活用の現
在地など
ついて講
演。「生成
AIはどう
いう場面で
使うか、ど
ういう場
面で使用を
控えるか

が重
要だ」と強調し、活用事
例を紹介した。

参加者は3、4人のグ
ループに分かれ、教育現
場でのAIの適切な活用
などを討論。「全部AI
に委ねるのではなく、自
分たちで考えてから修正
してもらう」「子どもた
ちの思考する場面では、

自分たちで思考させる」
など意見を交わした。

菅野さんは「まず何の
力を身に付けさせたいか
がスタート」とし、「す
べての子どもにとって同
じAIの使い方はない」
と指摘。「何のために学
習するのかという『学習
観』と呼ばれるものを先
生も子ども自身も考える
必要がある」と訴えた。

教育現場における生成AI活用の
現在地などについて語る菅野さん

